

避難児童生徒の学習支援

東京のNPO法人M P O 福島の仮設住宅で教室



ホワイトボードを使って丁寧
に指導する学生ボランティア

東京のNPO法人M P Oは十二日、東京電力福島第一原発事故で避難生活を送る浪江町の子どもの学習支援を始めた。福島大うつくしまふくしま未来支援センターと福島市のN P O法人「ピンズふくしま」と連携した取り組みで、来年三月まで実施する予定。

同日、福島市の笹谷仮設住宅で一回目の学習教室が開かれ、小学生から高校生まで約二十人が参加した。M P Iに所属する東京大や早稲田大など首都圏の大学生ら十一人と、福島大人間発達文化学類の学生八人が訪れ、入試へ向けた学習計画などをアドバイスした。リーダーを務めるM P Iの水垣舜一さん（東京大文科I類一年）は「避難生活が学習環境に与える影響は大きい。今後は浪江町以外の子どもたちもサポートしたい」と語った。

M P Iや福島大はこれまで個々に同仮設住宅で学習支援ボランティアをしていた経緯があり、共同で実施する

食生活で強いストレス

玄侑さん、本県の現状語る 東京

三春町にある禅寺の住職で芥川賞作家の玄侑宗久さんが十二日、東京都内で「今、三春に生きる」というテーマで講演し、東京電力福島第一原発事故後に

県産のコメや野菜を食べるおじいちゃんや若夫婦の意見が分かるなど、不幸な状況がある」と住民の間で葛藤があることを説明。植物が土壌から吸

ど、粒が大きい土砂では効果が高いとしてい

汚染土



吸着沈
ボウル

きれた
きな

ムが水に移った。12%のセシウムが残

れば地下水に溶け出さない」と話している。

では二人が体調不良を訴えた。さらに一人が左足を切るけがをし、いわき市の病院で治療を受けた。

浪江と楡葉で一時帰宅

東京電力福島第一原発から半径二十キロ圏内の警戒区域への一時帰宅は十二日、浪江町と楡葉町で行われた。

浪江町は二百四十四世帯五百八十八人、楡葉町は三百四十三世帯

ことにした。今月は二設住宅などでも学習教室を開く。

空き巣など18件被害申告

十二日の一時帰宅で、楡葉町の住民から空き巣十五件、浪江町の住民から空き巣二件、倉庫荒らし一件の計十八件の被害申告が県警にあった。

震災テーマに相馬市長発表

日本地方自治学会

日本地方自治学会の研究大会は十二、十三の両日、会津若松市生涯学習総合センター「會津稽古堂」で開かれている。

大学や行政、地方議会などから約百五十人が参加している。初日は「震災と地方自治」の共通演題で立谷秀清

相馬市長、塩崎賢明神戸大大学院教授、保母武彦島根大名普教授が発表した。このうち立谷市長は東日本大震災への対応を報告。震災発生直後の市内の状況や復興に向けた取り組みなどを語った。

十三日は分科会などを行う。清水修二福島大副学長、清川雅史会津若松市議らが発表する。



医師や看護師ら病院経営に理解

県自治体病院学会は十二日、会津若松市の会津若松ワシントンホ



13地点の環境放射線量測定値 (単位はBq/h)

郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	相馬市	いわき市	田村市	飯館村	川俣町	山木屋
0.04~0.06	0.04~0.05	0.04~0.05	0.02~0.04	0.05	0.05~0.06	-	-	-	-
0.78	0.40	0.13	0.08	0.42	0.17	-	1.94	1.26	-
0.85	0.41	0.12	0.08	0.41	0.16	-	1.99	1.26	-
0.81	0.41	0.13	0.08	0.42	0.17	-	2.01	1.26	-
0.79	0.40	0.15	0.07	0.42	0.17	0.15	2.03	1.27	-
0.78	0.40	0.13	0.07	0.42	0.16	0.15	1.99	1.29	-

放射性物質の検査結果

※単位は1kg当たりのベクレル。左の数値はセシウム134、右はセシウム137。「<」の右側の数値は検出下限値。

【牛肉】
※食品衛生法の暫定基準値は放射性セシウム(134、137の合計)500Bq/kg

【通行止め】
あぶくま高原自動車道福島空港―平田インターチェンジ間の上下線は12日午後2時5分ごろから約30分間、通行止めになった。逆走する車の情報が寄せられたため(県警高速交通隊)